

2-2 松本城クイズ 松本城天守の仕組み (乾小天守・渡り櫓) (解答・解説)

松本城管理事務所研究室

1. 大天守と乾小天守をつないでいるのは渡り櫓です。渡り櫓の入り口を何と呼ぶのでしょうか。

①



天守への入り口は、渡櫓（わたりやぐら）にある**大手口（おおてぐち）**です。がんじょうな城門があつて、たやすく中に入れないうような造りになっています。階段（がんだ）を登って乾小天守に進むのが順路となっています。

乾小天守と大天守をつないでいるのが渡り櫓です。（連結式）

2. 渡り櫓は、□重□階の建物でしょうか。 _____ ①

天守と乾小天守をつないでいるのが渡り櫓です。二重二階にみえますが、実は大手口に入った所が一部地下一階です。なので**二重二階一部地下一階付**ということになります。階段下靴脱ぎ場がそれにあたります。なお、渡櫓を江戸時代、矢倉とも言っていました。江戸時代は石の階段のみでした。

3. 渡り櫓入り口に門扉（もんぴ）を支えている柱を何と呼ぶのでしょうか。 _____ ③

門扉（扉）が取り付けられている柱（写真1）を**鏡柱**（かがみばしら）と呼ばれています。材はけやきが使われています。2本の鏡柱を立て、その上に太い冠木（かぶき）を渡しています。

（写真2）門扉は肘壺と呼ばれる金具を用いて鏡柱から吊られます。饅頭形の乳金物（ちちかねもの）や八双（はっそう）と呼ばれる金物を取り付けてありますので注目してみてください。



4. 渡り櫓二階に展示されている松本城天守の鬼瓦は、何のために取り付けたものでしょうか。

④



鬼瓦とは、屋根の棟の両端に用いる鬼の面にかたどった瓦（写真3）、鬼の面をもたなくても鬼瓦といいます。**魔よけ**のために鬼面を用いることが多いのです。城主の家紋の入った形もあります。（写真4、5）

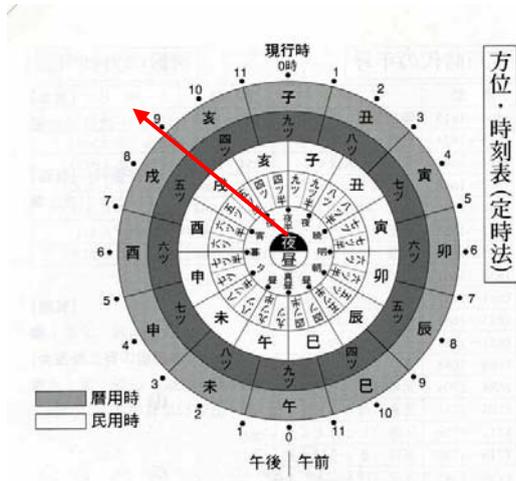
5. 乾小天守は、外からみると□重、中に入ると□階になっています。□にあてはまる数字は？

③

外から見ると屋根が3つ張り出して**3重**になっていますが、中に入ると**4階**になっています。（**3重4階**）2重目の軒屋根の中に3階が隠れているために、外からは見えない階となっています。大天守3階と同じです。江戸時代乾小天守を、「御控櫓」「三重櫓」と呼ばれていました。

6、乾小天守の乾とは、方角をさしています。さて、どちらの方角をいうのですか。

①



乾（戌と亥の間）の方角を指します。即ち北西をいいます。（図の赤線の方角です）
大天守に対して、乾小天守は、実際には北に位置しています。北は叛く（そむく）、敗れるなどの意があり忌み嫌われていたので、乾といったのでしょう。

7、乾小天守の内部は、□□柱が多く使われています。□にあてはまる言葉はどれでしょうか。

②

乾小天守の内部は、丸太柱がたくさん使用されています。3・4階の12本の丸太柱は通し柱で、創建時の柱で、すでに400年以上たっています。材質は樅（もみ）です。手斧（ちょうな）はつりです。1・2階の側柱および内部柱のうち4本は通し柱です。管柱（くだ）は、1階内部に2本、2階内部に4本用いられています。1・2階内部の通し柱は、いずれも後補のものです。

8、大天守の柱と柱の間(柱間)は、1m.97cmあります。乾小天守の柱間はどのくらいでしょうか。

①

柱と柱の間隔は1m.82cmです。大天守は1m.97cmと違う寸法で建てられています。いわゆる乾小天守の柱間は、田舎間で柱間は、1間6尺サイズです。関東地方などの民家に流布していません（江戸間サイズ）。これに対して、近畿地方に流布していた柱間は1間6尺5寸（柱の心から心まで）で京間サイズです。

9、乾小天守の1階の中央付近にある丸い柱は、自然のまま木を使った柱です。しかも創建時の柱で400年以上たっています。この柱を何とよぶのでしょうか。

①

乾小天守の真柱です。梅（つが）の大丸太材で木肌の紋様がきれいです。心柱とも書きます。塔などの中心柱を言います。



10、乾小天守4階には、大天守にはみられない窓があります。この窓は寺院にみられる窓です。何と呼ぶのでしょうか。

②



花頭窓（火灯・華頭・・・）です。上方に操形のある一種の尖頭アーチ形の和風窓を言います。禅宗寺院の建築に見られる形式で、中国におこり、日本には鎌倉時代に入ってきました。それが後城郭建築にも取り入れられ、広まったのです。乾小天守4階には、4ヶ所みられます。また、辰巳附櫓にも2ヶ所あります。

乾小天守4階には、4ヶ所みられます。また、辰巳附櫓にも2ヶ所あります。